

10 保護者の運動・スポーツに対する意識や態度

10-1 子どもの運動・スポーツ活動に対する保護者の関わり

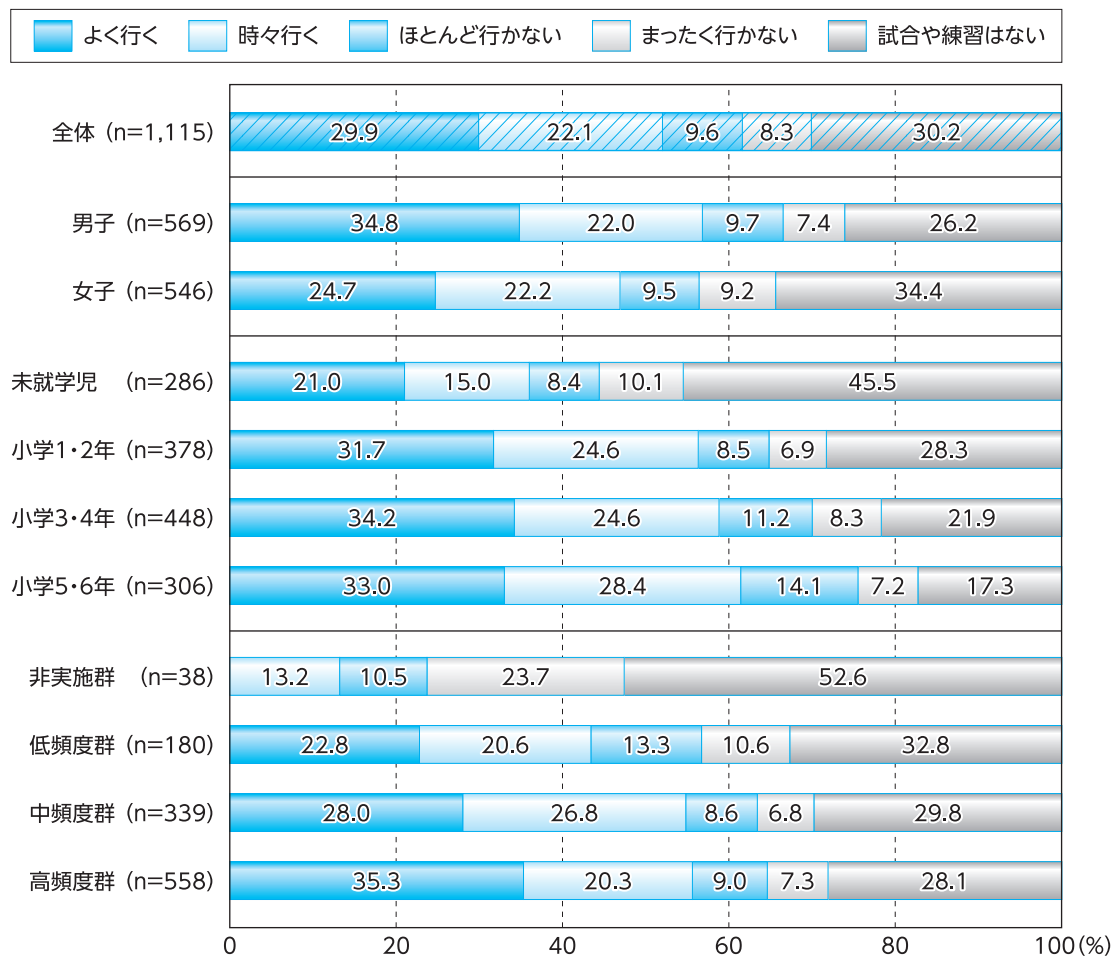
4～9歳の回答者の保護者に対し「あなたご自身を含め、ご家族は調査をお願いしたお子様の運動・スポーツの試合や練習をみにいきますか」とたずね、「よく行く」「時々行く」「ほとんど行かない」「まったく行かない」「試合や練習はない」の5段階で回答を求めた。

全体では「よく行く」29.9%、「時々行く」22.1%、「ほとんど行かない」9.6%、「まったく行かない」8.3%であった(図10-1)。「よく行く」「時々行く」と回答した割合を

合わせると52.0%であり、子どもの運動・スポーツの試合や練習をみに行く保護者は半数を占めた。

子どもの性別にみると「よく行く」と「時々行く」を合わせた割合は、男子56.8%、女子46.9%であり、男子が女子を9.9ポイント上回る。女子に比べて男子の保護者のほうが、子どもの運動・スポーツの試合や練習に関わる機会が多い様子がうかがえる。

また、子どもの就学状況別として「10代のスポーツラ



【図10-1】子どもの運動・スポーツの試合や練習をみに行くか
(全体・子どもの性別・子どもの就学状況別・子どもの頻度群別)

注1) 就学状況別の集計のみ10代のデータを使用

注2) 子どもの兄弟・姉妹は除く

資料: 笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015、「10代のスポーツライフに関する調査」2015

「イフに関する調査2015」の小学5・6年生の結果も含めて分析を行った。「よく行く」と「時々行く」を合わせた割合は、未就学児36.0%、小学1・2年56.3%、小学3・4年58.8%、小学5・6年61.4%と、学年進行にともなって高くなり、子どもが小学生になると半数以上を占める。

子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると「よく行く」と「時々行く」を合わせた割合は、非実施群13.2%、低頻度群43.4%、中頻度群54.8%、高頻度群55.6%と、子どもの実施頻度が高いほど、保護者が子どもの運動・スポーツの試合や練習をみに行く割合も高い。

10-2 保護者のスポーツボランティア実施状況

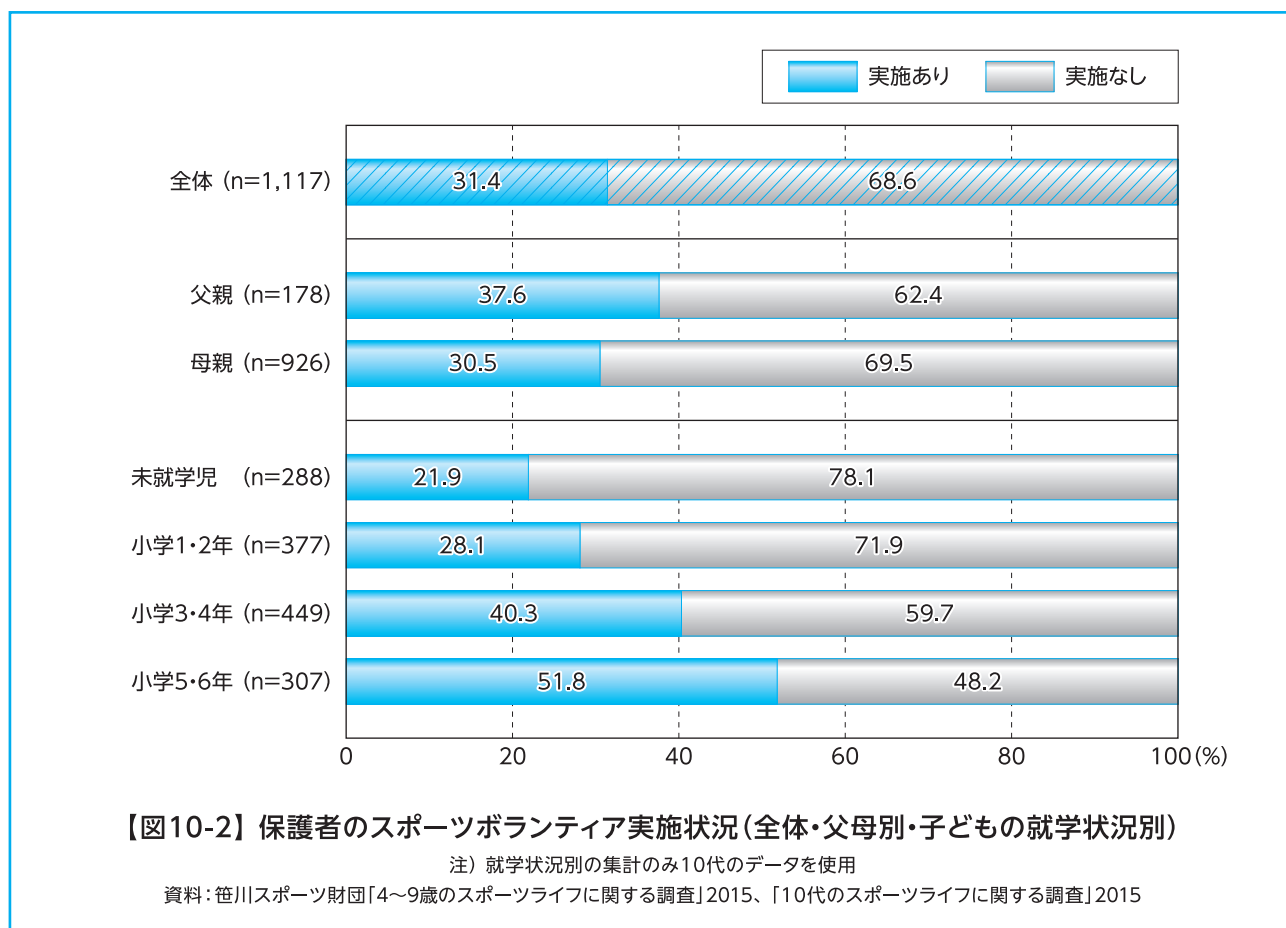
4～9歳の回答者の保護者に対し、過去1年間における自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ、地域のスポーツイベントでのボランティア実施の有無をたずねた。

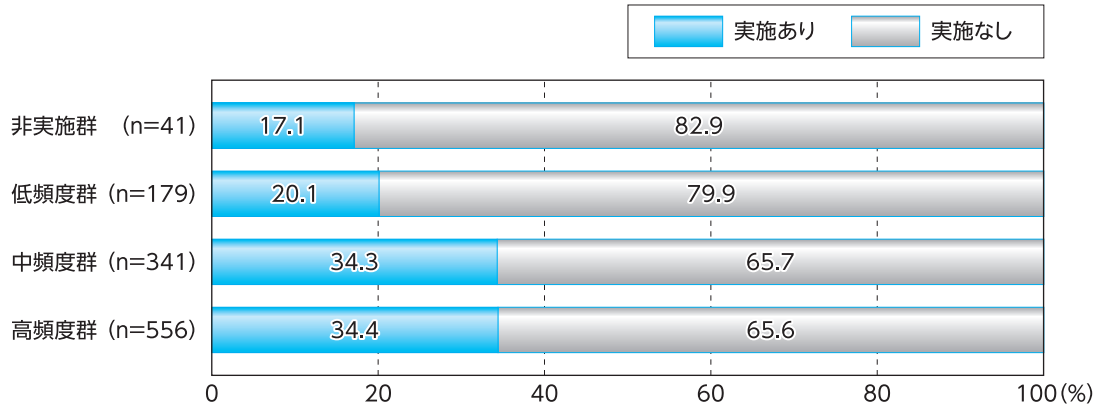
全体では「実施あり」31.4%、「実施なし」68.6%であり、過去1年間にスポーツボランティアを行った保護者は3割であった(図10-2)。

父母別にみると「実施あり」は、父親37.6%、母親30.5%と、母親に比べて父親のほうがスポーツボランティアの実施率が高い。また、小学5・6年を含めた子どもの就学状況別にみると「実施あり」は未就学児21.9%、小学1・2年

28.1%、小学3・4年40.3%、小学5・6年では51.8%と、学年が上がるにつれて保護者のスポーツボランティアの実施率は高くなる。特に、小学5・6年ではスポーツボランティアを行っている保護者が半数を占めている。

子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると「実施あり」は非実施群(17.1%)と低頻度群(20.1%)では2割程度であるのに対し、中頻度群(34.3%)と高頻度群(34.4%)では3割を超える(図10-3)。子どもの運動・スポーツ活動が高頻度になるほど、保護者のスポーツボランティア実施率も高くなる。





【図10-3】保護者のスポーツボランティア実施状況(子どもの頻度群別)

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015

表10-1に保護者のスポーツボランティア活動の内容を示した。全体では、自身や子どもが所属するスポーツ団体、クラブ等での活動として「自身の子も以外の参加者の送迎」が15.8%と最も多く、次いで「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業」12.5%、「自身の子も以外の参加者の飲料や弁当の準備」8.8%であった。地域のスポーツイベントやスポーツ行事に関する活動としては「会場の準備や撤収」が11.0%と最も多く、「飲料や食事の準備」8.0%、「受付や案内」6.8%と続いた。

子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると、自身

や子どもが所属するスポーツ団体、クラブ等での活動では、子どもの運動・スポーツ実施頻度が高くなるに従って、ほとんどの活動の実施率も高くなる。特に「自身の子も以外の参加者の送迎」は、子どもの運動・スポーツ活動が高頻度であるほど保護者がスポーツボランティアとして活動する割合も高いが、「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業」は子どもの活動が低頻度であっても他の活動に比べて実施率が高く、子どもの運動・スポーツ実施状況による差はあまりみられなかった。

【表10-1】保護者のスポーツボランティア活動内容(全体・子どもの頻度群別)

活動内容		全体		非実施群		低頻度群		中頻度群		高頻度群	
		n	実施率 (%)	n	実施率 (%)	n	実施率 (%)	n	実施率 (%)	n	実施率 (%)
自身や子どもが所属する スポーツ団体、クラブ等	自身の子も以外の参加者の送迎	1,110	15.8	40	2.5	176	7.4	340	15.3	554	19.7
	自身の子も以外の参加者の飲料や弁当の準備	1,110	8.8	40	2.5	176	4.5	340	9.4	554	10.3
	活動場所・施設の準備や予約・手配	1,109	5.7	40	2.5	176	2.8	340	7.1	553	6.0
	指導や審判員の補助	1,109	5.8	40	2.5	176	2.3	339	5.9	554	7.0
	役員や会計係等としての会の運営	1,109	6.0	40	0.0	176	2.8	340	6.2	553	7.4
	夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業	1,109	12.5	40	5.0	176	10.8	340	11.5	553	14.3
	ウェブサイトの更新やチラシの作成	1,109	1.7	40	0.0	176	2.3	340	1.5	553	1.8
	その他の活動	1,109	11.4	40	2.5	176	8.0	340	12.9	553	12.1
地域のスポーツ イベントや スポーツ行事	受付や案内	1,111	6.8	41	0.0	177	4.5	340	7.1	553	7.8
	飲料や食事の準備	1,112	8.0	41	0.0	177	6.2	340	8.5	554	8.8
	会場の準備や撤収	1,111	11.0	41	7.3	177	9.0	340	12.6	553	10.8
	駐車場等での車の誘導	1,111	4.0	41	2.4	177	2.3	340	3.8	553	4.7
	その他の活動	1,115	13.5	41	4.9	179	11.2	341	16.1	554	13.4

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015

10-3 保護者の子どものあそびに関する養育態度

4~9歳の回答者の保護者に対し、子どものあそびに関する普段の養育態度についてたずねた。

全体では「あてはまる」と「まああてはまる」を合わせた割合（以下、『あてはまる』）をみると、「友だちとあそぶときは、ケンカやいじめをせず、仲良くあそぶように注意したり誘導してあげたりしている」（以下、「友だちとあそぶときは仲良くあそぶよう注意等している」）では90.5%であり、ほとんどの保護者が『あてはまる』と回答した（表10-2）。また「少々のケガや危険が起こることには気にしないようにしている」では、7割の保護者が『あてはまる』と回答している一方で「大人の目の届く範囲であそばせるようにしている」においても『あてはまる』は8割を占める。

子どもの性別に『あてはまる』の割合をみると「友だち

とあそぶときは仲良くあそぶよう注意等している」では、男子91.6%、女子89.2%であり、子どもの性別では差はみられない（表10-3）。「一人では外にあそびに行かせないようにしている」では、男子63.9%、女子68.9%と、女子が男子を5ポイント上回る。

子どもの就学状況別に『あてはまる』の割合をみると、「大人の目の届く範囲であそばせるようにしている」「一人では外にあそびに行かせないようにしている」「友だちとあそぶときは仲良くあそぶよう注意等している」は、未就学児では9割以上を占めている（表10-4）。しかし、小学1・2年、小学3・4年と学年が上がるにつれてその割合は低くなる。

【表10-2】 保護者の子どものあそびに関する養育態度(全体)

	(%)			
	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
少々のケガや危険が起こることには気にしないようにしている (n=1,118)	27.6	44.1	19.1	9.2
砂場で土、石、砂であそばせている (n=1,116)	35.7	30.7	20.9	12.7
大人の目の届く範囲であそばせるようにしている (n=1,118)	43.3	35.2	16.5	5.0
一人では外にあそびに行かせないようにしている (n=1,121)	42.6	23.7	19.2	14.5
友だちとあそぶときは、ケンカやいじめをせず、仲良くあそぶように注意したり誘導してあげたりしている (n=1,119)	50.6	39.9	8.0	1.6
子どもがやりたがることは少々危なくてもやらせるようにしている (n=1,119)	16.7	46.8	30.5	6.0

資料：笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015

COMMENTS

- 今の時代、ケガをさせないようにと、あまり子どもの可能性よりも安全が優先され、子どもが伸び伸びできる環境ではないのかなと思います。安全も大事ですが、もっともっと自由に伸び伸びと、気持ち良く動ける環境づくりを求めます。
(4歳男子の母親)
- スポーツや習いごとをさせるのではなく、外であそぶことは大事だと思う。そのような生活の中で、基礎体力やコミュニケーション能力、危険回避力が身に付くと思う。
(7歳男子の母親)
- 安全に楽しくあそべる公園が足りない。子どもが小さいうちは、家から公園までの道も安全かどうか気になって行ける場所が少ない。
(9歳男子の母親)

資料：笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015

【表10-3】 保護者の子どものあそびに関する養育態度(子どもの性別)

(%)

		あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
少々のケガや危険が起こることには 気にしないようにしている	男子 (n=573)	27.6	45.2	19.0	8.2
	女子 (n=545)	27.7	42.9	19.1	10.3
砂場で土、石、砂であそばせている	男子 (n=573)	35.6	31.1	20.2	13.1
	女子 (n=543)	35.7	30.4	21.5	12.3
大人の目の届く範囲であそばせるようにしている	男子 (n=573)	38.9	37.5	18.7	4.9
	女子 (n=545)	47.9	32.8	14.1	5.1
一人では外にあそびに行かせないようにしている	男子 (n=574)	39.7	24.2	20.0	16.0
	女子 (n=547)	45.7	23.2	18.3	12.8
友だちとあそぶときは、ケンカやいじめをせず、仲良く あそぶように注意したり誘導してあげたりしている	男子 (n=573)	50.1	41.5	7.0	1.4
	女子 (n=546)	51.1	38.1	9.0	1.8
子どもがやりたがることは少々危なくとも やらせるようにしている	男子 (n=573)	16.8	46.4	30.7	6.1
	女子 (n=546)	16.7	47.3	30.2	5.9

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015

【表10-4】 保護者の子どものあそびに関する養育態度(子どもの就学状況別)

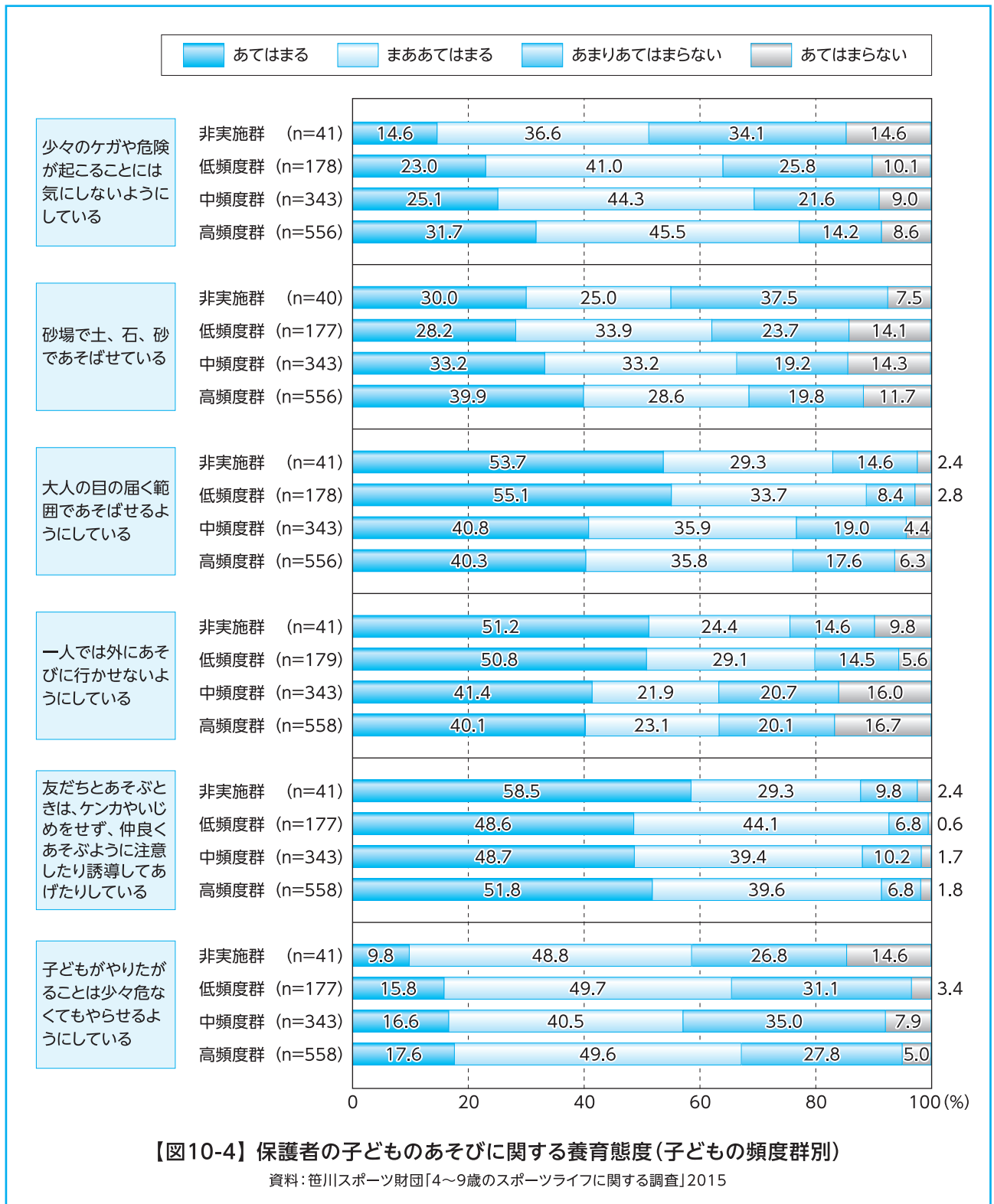
(%)

		あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
少々のケガや危険が起こることには 気にしないようにしている	未就学児 (n=288)	28.1	40.6	19.4	11.8
	小学1・2年(n=380)	29.7	46.8	16.8	6.6
	小学3・4年(n=447)	25.5	44.3	20.4	9.8
砂場で土、石、砂であそばせている	未就学児 (n=286)	47.2	31.5	15.4	5.9
	小学1・2年(n=379)	37.5	28.0	22.7	11.9
	小学3・4年(n=448)	26.8	32.6	22.8	17.9
大人の目の届く範囲であそばせるように している	未就学児 (n=287)	72.1	23.7	3.8	0.3
	小学1・2年(n=381)	45.1	37.3	13.6	3.9
	小学3・4年(n=447)	23.0	40.9	27.1	8.9
一人では外にあそびに行かせないように している	未就学児 (n=289)	77.9	15.9	4.8	1.4
	小学1・2年(n=381)	40.7	26.5	21.0	11.8
	小学3・4年(n=448)	21.7	26.1	27.0	25.2
友だちとあそぶときは、ケンカやいじめをせず、 仲良くあそぶように注意したり誘導してあげたり している	未就学児 (n=288)	59.7	34.4	4.5	1.4
	小学1・2年(n=380)	51.6	39.7	7.9	0.8
	小学3・4年(n=448)	44.2	43.5	9.8	2.5
子どもがやりたがることは少々危なくとも やらせるようにしている	未就学児 (n=288)	16.7	54.9	21.9	6.6
	小学1・2年(n=380)	17.1	46.8	31.8	4.2
	小学3・4年(n=448)	16.3	41.7	34.8	7.1

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2015

子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると「少々のケガや危険が起こることには気にしないようにしている」「砂場で土、石、砂であそばせている」は、実施頻度が高くなるにつれて『あてはまる』の割合が高くなる(図10-4)。一方「大人の目の届く範囲であそばせるように

している」「一人では外にあそびに行かせないようにしている」では、非実施群・低頻度群に比べて、中頻度群・高頻度群のグループのほうが『あてはまる』の割合は低い。運動・スポーツをあまり行っていない子どもの保護者ほど、ケガや危険に関する意識が高い様子が見えてくる。



【図10-4】保護者の子どものあそびに関する養育態度(子どもの頻度群別)

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015